

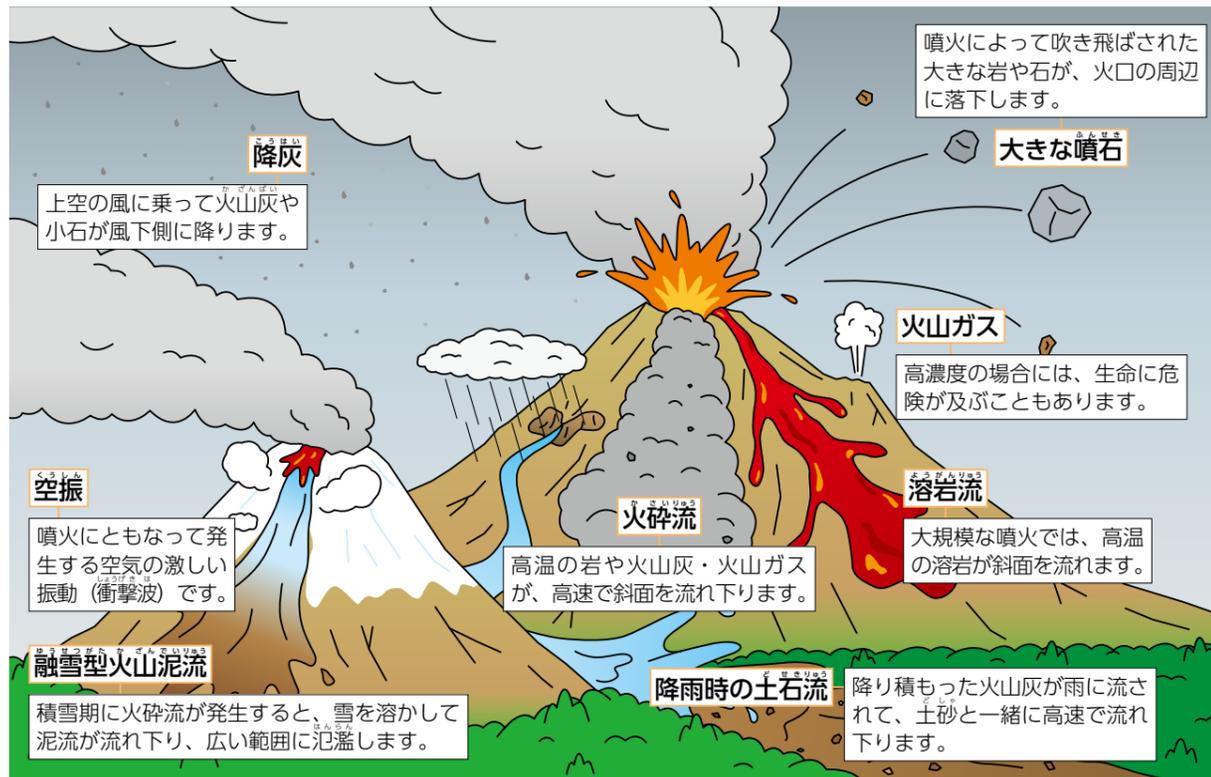
01 浅間山における火山災害

浅間山は、全国でも有数の活火山のひとつです。

ここ約10年の間では、中・小規模な噴火はあるものの、噴火を繰り返してきた時期（1900年頃から1970年代）と比較すれば静かな状況が続いています（最新の噴火警戒レベルの情報は、町のホームページで確認してください）。

いつ被害をもたらす噴火が起こるかわかりませんので、火山噴火に対する知識を深め、万に備えましょう。

1 噴火による主な災害



政府広報オンライン「火山噴火による主な災害」

(<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201502/1.html#fifthSection>) を加工して作成



空振による被害

1950年9月23日 気象庁撮影

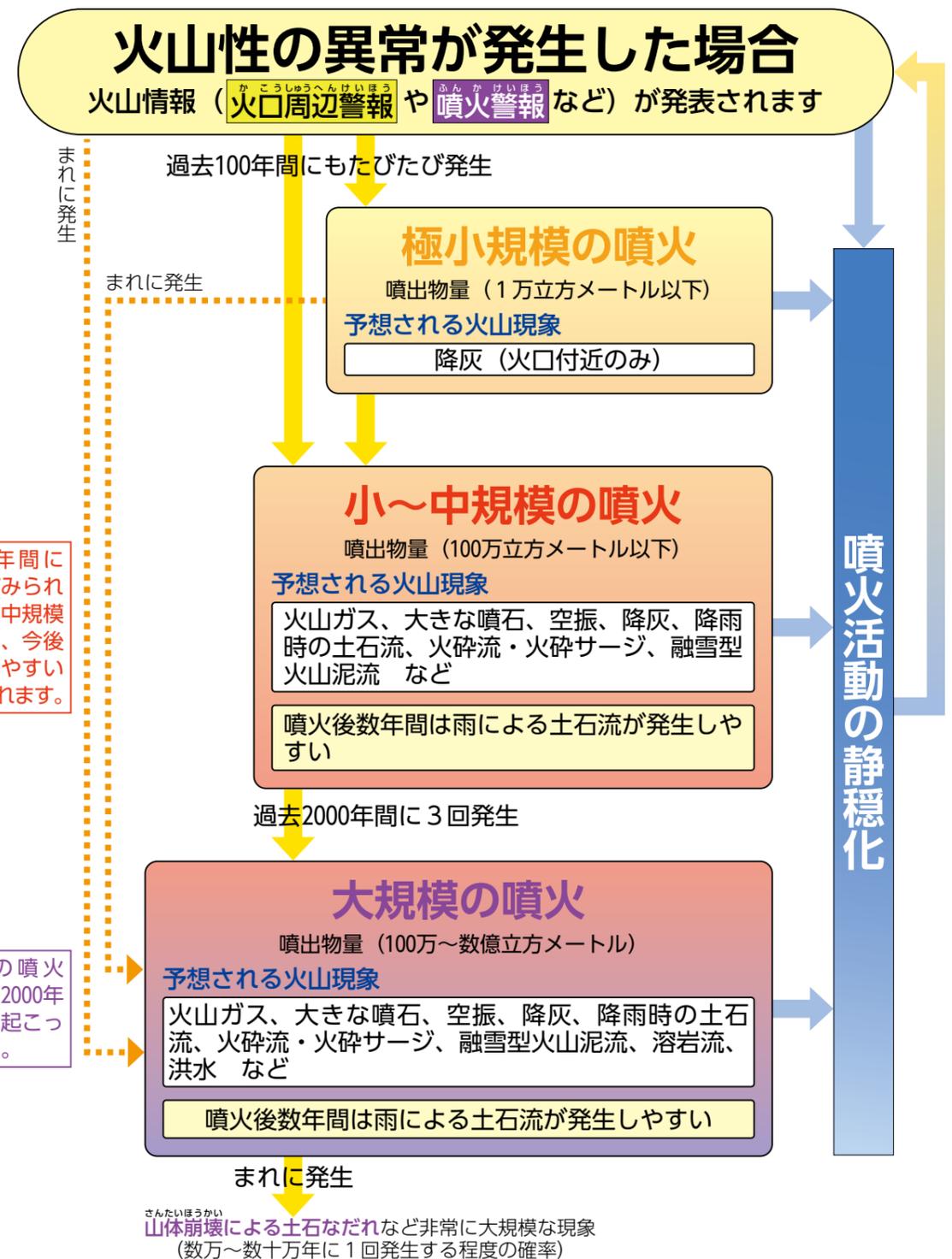


降下火砕物（降灰）

1958年12月14日 気象庁撮影

2 浅間山で予想される噴火の進み方

浅間山では、極小規模の噴火、小～中規模の噴火、大規模の噴火の発生が想定されています。極小規模や小～中規模の噴火が発生すると、そのまま活動が沈静化することが多いですが、場合によっては大規模な噴火に発展することもあります。

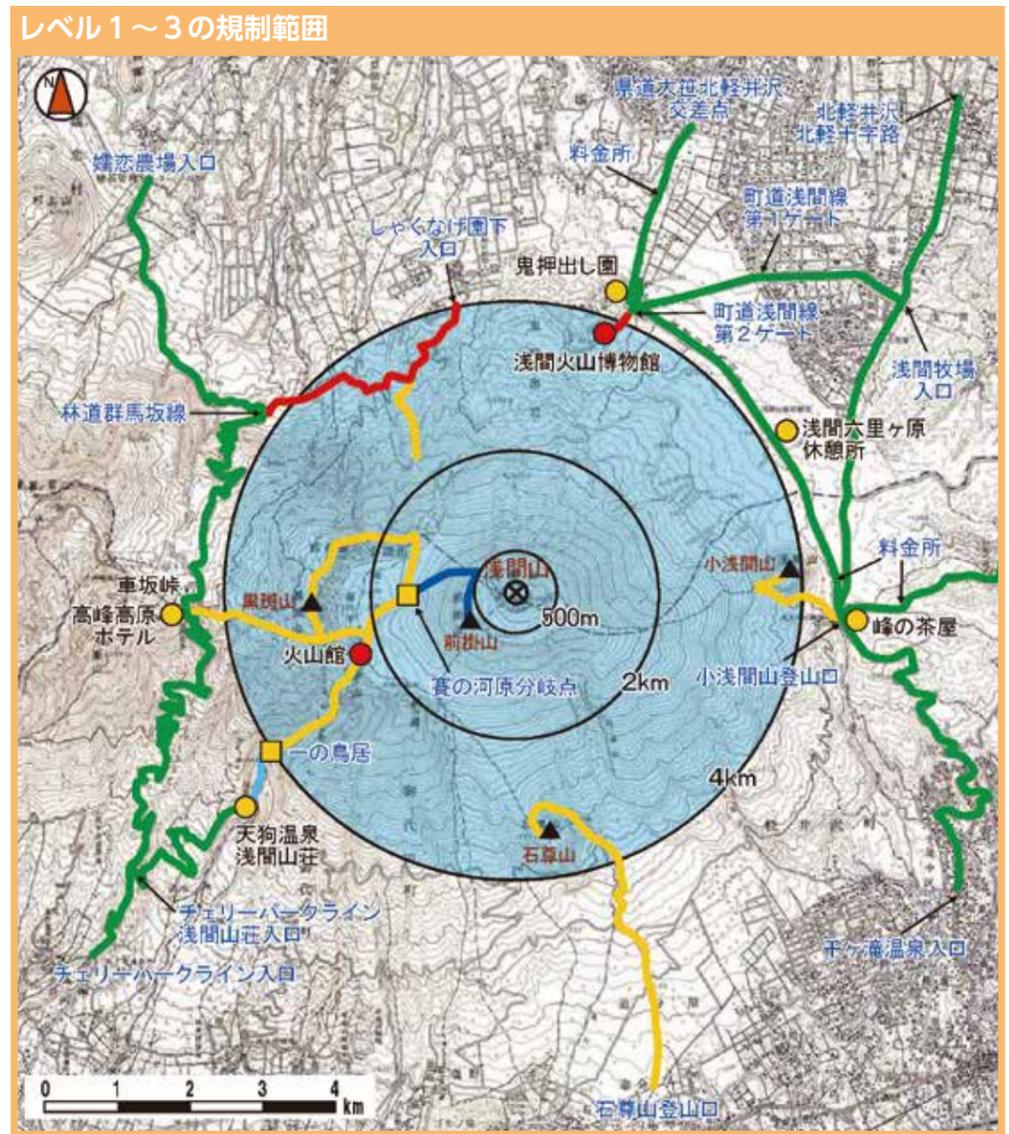


3 浅間山の噴火警戒レベル

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています。

種別	名称	対象範囲	噴火警戒レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応
特別警報	噴火警報(居住地) または 噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。
			4 (高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要。
警報	噴火警報(火口周辺) または 火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常的生活。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。
			火口周辺	2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山であることを留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火口内への立入規制等。

●この図は、噴火警戒レベル1～3のときの規制範囲を示しています。
 なお、居住地域まで影響が及ぶ場合は、レベル4(高齢者等避難)・レベル5(避難)となります。



●噴火警戒レベル1～3で必要な防災対応

噴火警戒レベル (キーワード)	必要な防災対応
レベル3 (入山規制)	防災対応の範囲を拡大(4kmを超える範囲で注意喚起、一時規制等) 登山禁止(山頂火口から4km以内規制)
レベル2 (火口周辺規制)	火口周辺立入禁止(山頂火口から概ね2km立入禁止)
レベル1 (活火山であることを留意)	火口付近立入禁止(火口から500m以内規制)

凡例	
⊗ 火口	○ 立入禁止区域(火口から4km以内)
道路: レベルにより規制されます。 赤線: レベル3のときは通行できません。 緑線: レベル3のときは状況により規制が行われます。	
登山道: 浅間山では登山して良い登山道が決められています。 上図に示した登山道を利用してください。 火口から500m以内は、レベル1でも立ち入り禁止です。	
登山が可能な登山道(レベル別) レベル3: (状況により規制される場合があります) レベル2: レベル1: 	

もしも浅間山が噴火したら

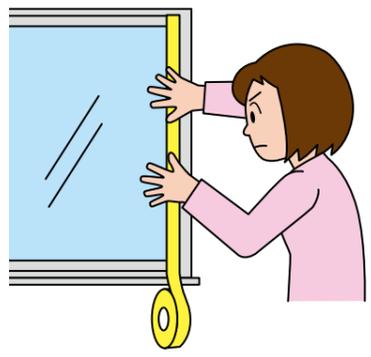
1 噴火したときの注意点

火山灰が降ってきたら…

- 火山が噴火すると、細かく砕けたマグマや岩石が空高く吹き上げられ、風に乗って広い地域に降ります。
- 火山灰が侵入しないように、窓の開け閉めに注意しましょう。
- 湿らせたタオルをドアの隙間などに置き、窓の隙間にはテープを貼りましょう。
- 不必要な移動は避け、外にいる場合は、建物や車の中に避難し、情報収集に努めましょう（ただし、火山灰が降り積もると路面等が滑りやすくなるので、車の運転には注意が必要です）。
- 火山灰が舞っているときはマスクやゴーグルをつけましょう（目への刺激を防ぐため、コンタクトレンズは取り外すことが好ましいです）。
- 風下側では火口から8キロメートル付近まで小石が飛んでくることがあります。



噴火後の小石（婦恋村鬼押しハイウェイ）
2004年9月24日 気象庁撮影



ここで、浅間山の活動についてお知らせします。……

空振にも注意！

- 噴火時の爆発によって発生する空気振動（空振）で、窓ガラスが割れて、けがをすることがあります。[p22参照](#)
- 火口から離れていても気象条件によっては、広範囲に影響が予想されます。
- 山側の窓ガラスから離れましょう。また、飛散防止フィルムやアミ入りガラスなどで補強するなどの対策をしておきましょう。



Check!

融雪型火山泥流発生時の避難の心得

- 浅間山が山頂付近に雪が積もっている冬期間に中規模噴火をし、火砕流が発生した場合、この火砕流により、雪が溶け、土砂と一緒に高速で流れ下る現象を「融雪型火山泥流」といいます。
- 沢筋や低地等危険度が大きい地域では、早めに避難しましょう（自らの判断に基づく自主避難）。
- 危険箇所を通らず谷から離れ、近くの高台等高所に避難しましょう。
- 屋外に泥流が到達している場合又はすぐそばまで迫っている場合は、屋外には出ず建物の2階以上に避難しましょう。
- 近くに高台等高所がない場合は、泥流の力に耐えうる丈夫な建物の高いところ（2階以上）に避難しましょう。



谷から離れて！
高台に！

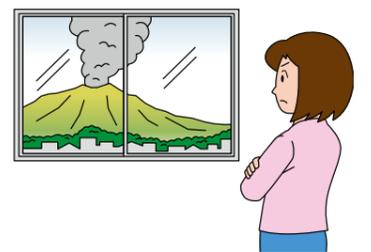
2 日頃の火山噴火対策

軽井沢町を含む浅間山周辺の市町村では、火山活動による危険を防止するため、**災害対策基本法の規定に基づき、火口から半径4キロメートル以内を警戒区域として設定して、立ち入りを禁止**しています。

ただし、噴火警戒レベルが「1（活火山であることに留意）」及び「2（火口周辺規制）」のとき、軽井沢町では、小浅間山と石尊山への登山道のみ立ち入りを認めています。それ以外の部分については、立入禁止となっていますので、危険防止のため、絶対に守ってください。[p24・25参照](#)

浅間山の噴煙を見る習慣をつける

「噴煙に色はついていないか、量は増えていないか」「火山ガス特有のにおい（卵が腐ったようなにおい）はしないか」などが目安となります。



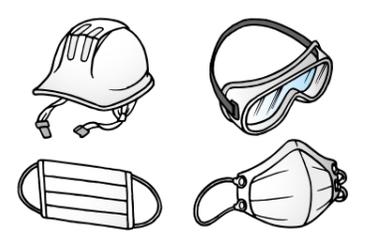
噴火が起きたときのことを考える

浅間山ではどのような噴火災害が考えられるのか知っておきましょう。[p22~27参照](#)
家族みんなで避難する場所を確認しておきましょう。



防災用品を準備する

小さな噴石にはヘルメット、降灰があるときはマスクやゴーグルが効果的です。



防災情報、登山情報を確認する

「火山に関する情報」等を日頃からチェックしましょう。
防災行政無線やメール配信サービスなどの噴火に関する情報に注意しましょう。
迷信やSNSのデマに惑わされないようにしましょう。



気象庁ホームページ 浅間山の活動状況 噴火警戒レベルや火山に関する解説情報 	軽井沢町ホームページ 降灰予報 	利根川水系砂防事務所 長野県佐久建設事務所 ライブカメラで浅間山の様子を見ることができます。
--	-------------------------------	--

浅間山の異常を見つけたときは… **気象庁火山監視・警報センター 浅間山火山防災連絡事務所** ☎0267-45-2167